

第19回
函館港イルミネーション映画祭2013
正式出品

大阪アジアン映画祭2014
メモリアル3.11部門
入選

ドイツ・フランクフルト
Nippon Connection 2014
Nippon Visions部門
公式出品作品

この場所で生きることは、
罪なのでしょうか――

菅乃廣 監督作品

あいとばうのまち

夏樹陽子 勝野洋 千葉美紅 黒田耕平 雅賀克郎 安藤麻衣 わかばかなめ 大谷亮介 / 大池容子 伊藤大翔 大島果子 半海一見 名倉右衛 草野とおる あかつ 沖正人 / 杉山裕右 里見瑞子 笠井三 なすび (芦の沼) 淵田直
監督 菅乃廣 製本 井上淳一 摂影監督 鶴島津裕 (JSC) 音楽 柳原大 間明 三重野聖一郎 錄音 士屋知之 音響効果 丹雄二 美術 鈴木伸二郎 監督補・VFXスペシャリスト 石井良和 監督助手 神本たえ 豊田治史 高橋大武 編集 眞田智子 衣裳 佐藤真澄
スクリプト 音原香穂梨 バイク 石野一美 VFX マリーポスト ゲーリング・プロデューサー 小林直之 フォトグラファー 畠谷宣緒 製作 「あいとばうのまち」映画製作プロジェクト オーピーニング曲「千のナイフ」(作曲 板木龍一) 挿入歌「咲きましょう、咲かせましょう (唄:夏樹陽子)」
撮影協力 いわきフィルム・コミッション協議会 一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 配給・宣伝 太秦 2013年/日本/カラー/DCP/ドルビーアトモ 126分
C「あいとばうのまち」映画製作プロジェクト
www.u-picc.com/aitokibou/



東電に翻弄された四世代の家族を通して、七十年に渡る日本の歩みを描いた愛と希望の物語。



怒りをこめて振り返れ、あの時の事を!!

福島出身の菅乃廣監督と脚本家井上淳一が渾身の力を込めて描く鎮魂の物語。

『あいときぼうのまち』は、日本の原子力政策に翻弄され、傷つき、失い、絶望しながらも、それでも生きていこうとする、四世代一家族の物語。そして、3.11後の世界に生きなければならぬ我々すべての話である。

監督は本作が監督デビュー作となる福島県出身の菅乃廣。20数年前、死が迫っていた父親が呟いたひと言「この奇病は昔原発で浴びた放射能が原因かもしれない」をきっかけに、いつか原発を描こうと思っていた菅乃は3.11でその思いを新たにし、本作を完成させた。脚本は、昨年『戦争と一人の女』で監督デビューも果たした井上淳一。井上は、ノンフィクションや報道では東電と名指してきるのに、フィクションでは何故できないのかと疑問を感じこのシナリオを書いたという。この壮大なドラマの奥には、震災からたった三年で全てを忘れ去り、また新たに始めようとしているこの国への怒りが静かにたぎっている。撮影もまた福島県出身である鍋島淳裕(『ヘンズ・ストーリー』『軽蔑』『戦争と一人の女』など)。

原発問題を扱うゆえにキャスティングは難航した。しかし、シナリオと監督の熱意に打たれ、有名無名を問わず、志と骨のある俳優陣が揃った。大人の恋を巧みに演じ、自らの新境地を開いた夏樹陽子(『サ・ハンゲマン』)と勝野洋(『太陽にはほえろ!』)、大谷亮介(『相棒』シリーズ)らベテラン陣。函館港イルミネーション映画祭で「大竹しのぶの再来」と絶賛された驚異の新人、千葉美紅(『戦争と一人の女』)は震災ですべてを失った少女を切実に体現する。他に、小劇場とインディーズ映画をまたにかけた活躍をみせる黒田耕平(『アジアの純真』)、平田オリザの青年団の下部組織「うさぎストライブ」で作・演出を手がける大池容子など、バラエティに富んだ俳優陣が70年にわたる骨太なドラマを彩る。さらに、オープニング曲には坂本龍一のデビュー曲「千のナイフ」を、新鋭ピアニスト・榎原大が演奏。

それぞれの想いを抱えた彼らが描く福島の過去、現在、そして未来。本年度、最も目が離せない一本であることは間違いない。



あなたの家族の瞳には、あの頃のように明るい未来が見えていますか。

敗戦間近の1945年(昭和20年)4月、福島県石川町の山奥で天然ウランの採掘が行われていたことを知る人はあまりいない。もちろん、原子爆弾を作るためのウランだが、その採掘は学徒動員の中学生によるものだった。しかし、5月の空襲で、原爆を研究する早稲田の理化学研究所は焼け、その計画は事実上頓挫した。それでも、彼らは敗戦まで来る日も来る日もウランを掘り続けた。自分たちが何を探しているのか、知らぬままに——。

東京オリンピックの二年後の1966年(昭和41年)、福島県双葉町は揺れていた。原発建設を巡って、賛成派と反対派に町が二分され、揉めていたのだ。反対派の理由は「原発は危険だから」ではなく、「住んでいる土地を奪われたくない」から、というものだった。やがて、反対派も「これで出稼ぎに行かなくて済みますよ」という説得に応じ、賛成派へと転じていった。ウラン採掘をしていた少年は大人になり、どうしても原発建設に賛成とは言えず、町の人間から孤立し、酒に溺れ、家族はバラバラになっていく。2011年、その娘は小さいながらも幸せな家庭を作り、還暦を迎えていた。

そこに現れる少女時代の恋人。男は原発労働者だった息子を癌で失ったばかりだった。女は男の心の穴を埋めるために体を投げ出す。しかし、やがてそれは女の孫娘の知るところとなる。孫娘はそれをどうしても赦すことができず……。

そして、2011年3月11日——。

津波で祖母を失った少女は、それを自分のせいだと思い込み、自らを傷つける。世間が3.11を忘れても、少女は忘れることができない。少女は自らを赦すことができるのか。すべてを失った家族は再生することができるのか。

※この映画による収益の一部は、
福島第一原発事故の被害救済に役立てます



夏樹陽子 藤野洋 千葉美紅 黒田耕平 雉賀克郎 安藤麻吹 わかばかなめ 大谷亮介 / 大池容子 伊藤大翔 大島葉子 半海一晃 名倉右喬 草野とおる あかつ 沖 正人 / 杉山裕右 里見瑠子 笠 兼三 なすび(脚の出世) 渡辺直也
監督 菅乃廣 脚本 井上淳一 撮影監督 鵜島淳裕(J.S.C.) 音楽 桧原 大 照明 三重野聖一郎 舞台 土屋和之 音響効果 丹 二郎 奥美 鈴木伸二郎 監督補・VFXスペシャリスト 石井良和 監督助手 棚本たえ 豊田崇史 高橋大武 編集 矢田智子 衣装 佐藤真澄
スタジオ: 菅原香穂梨 ベイク: 石野一美 VFX マリーポスト ゲンキ: ジョニー・ルイ・マーフィー 小林直之 プロダクション: 倉谷宣緒 製作「あいときぼうのまち」映画製作プロジェクト オーピーニング曲「千のナイフ」(作曲:坂本龍一) 挿入歌「咲きましょう、咲かせましょう(唄:夏樹陽子)」
撮影協力:いわきフィルム・コミッション協議会 一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 配給・宣伝:太秦 2013年/日本/カラー/DCP/ドルビーアトモス 126分 ©「あいときぼうのまち」映画製作プロジェクト
www.u-pic.com/aitokibou/

6.21(土)より鎮魂のロードショー!

特別鑑賞券1,500円(税込)絶賛発売中!(当日一般1,800円の処)劇場窓口、チケットぴあ、プレイガイドにて

新宿駅東口 伊勢丹メンズ館B1F

テアトルシネマグループ

テアトル新宿

03(3352)1846 www.ttcg.jp

上映時間は劇場にお問い合わせください。

梅田芸術劇場斜め前 梅田ロフト B1F

テアトルシネマグループ

テアトル梅田

06(6359)1080 www.ttcg.jp